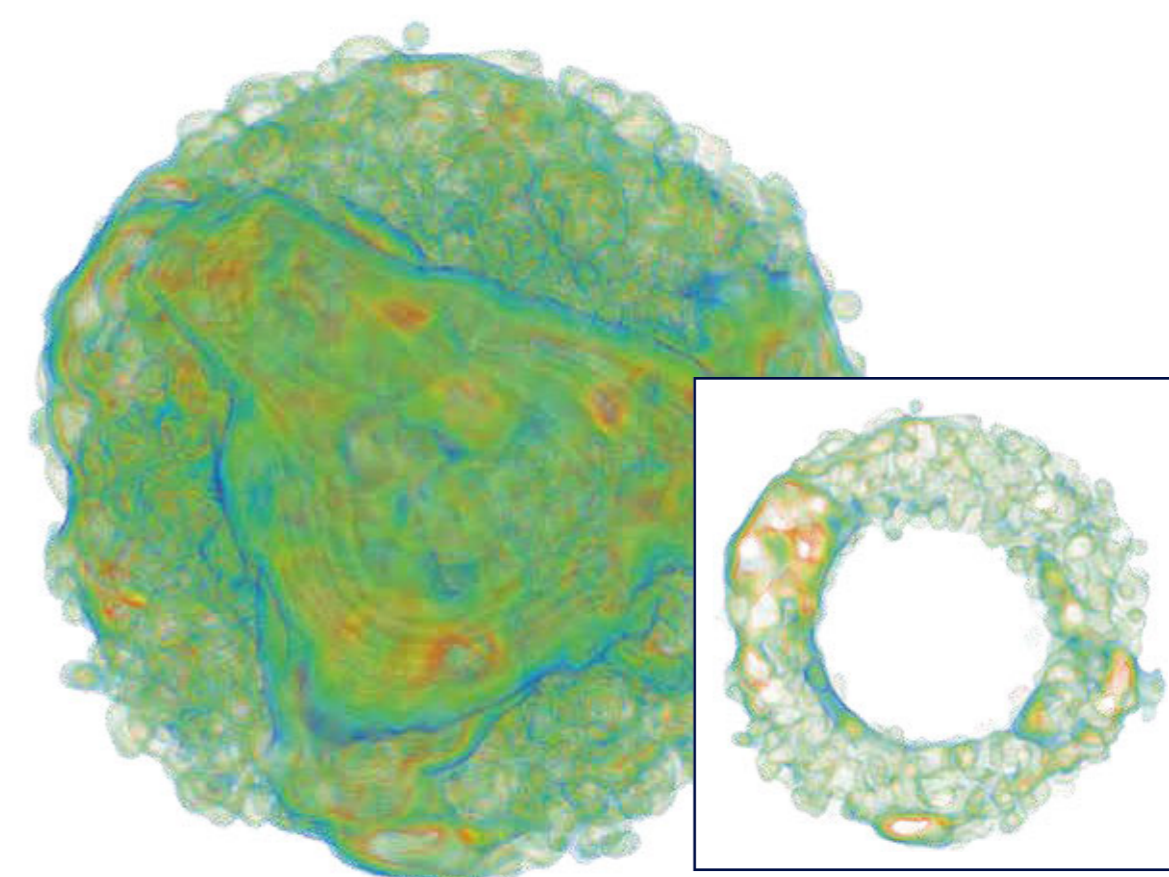
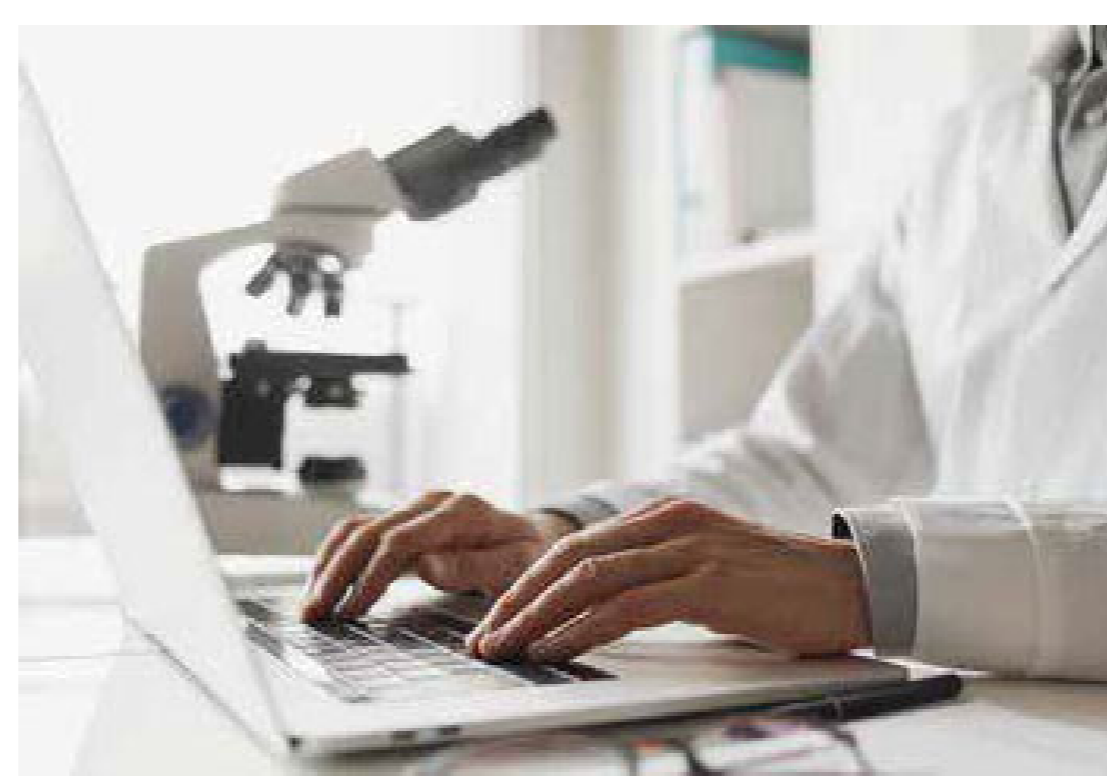


抗体のデザイン最適化への近道 超高感度中角溶液散乱測定装置

数十 μ Lの試料から得られる溶液中の分子の生きた姿

溶液状態での測定を行うため、生体条件に近い状態や、活性状態の観察が可能

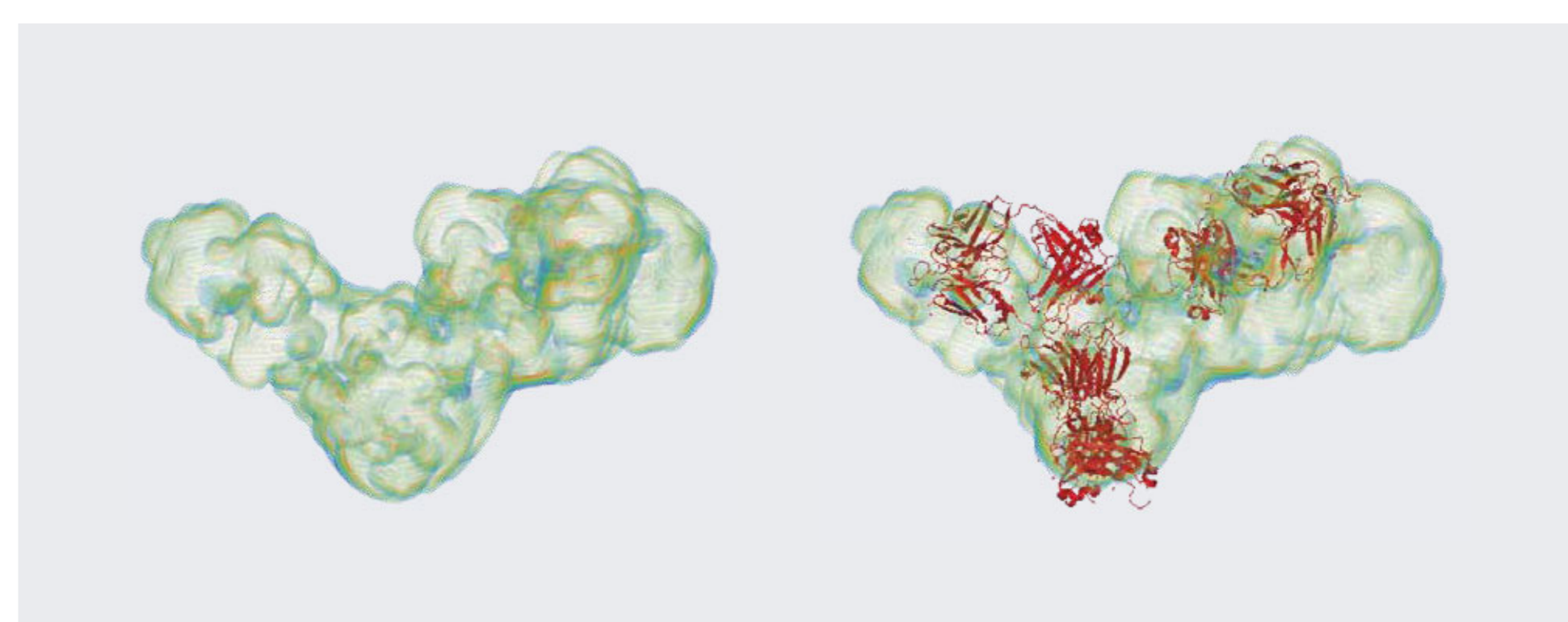


貯蔵蛋白質フェリチン溶液の
可視化例(全体図,断面図)

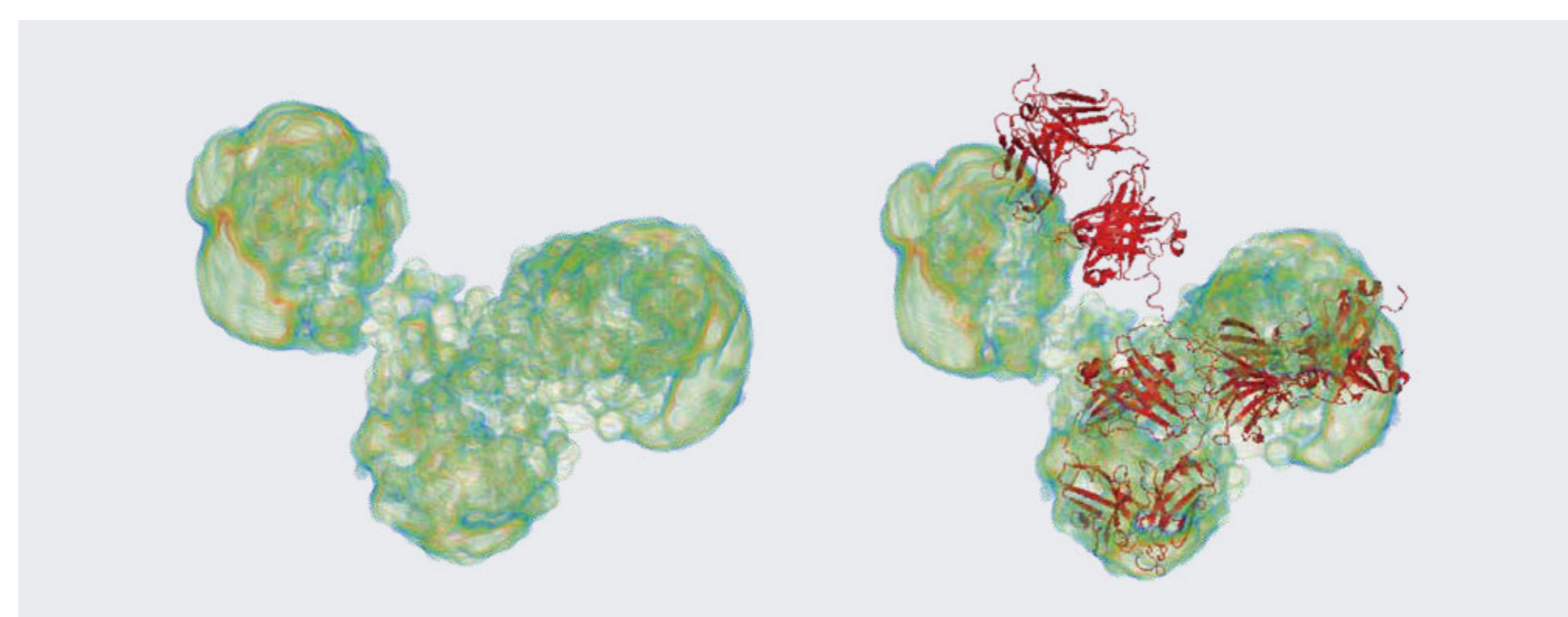
MAXS (中角X線散乱) により、溶液中の分子を直接観察

溶液中にただよう抗体の
“生きた状態” “運動性”を
確認してみませんか？

- 試料の凍結や固定など、特別な処理は一切不要
- 前提条件を必要とせず、ターゲットの電子密度像が観測可能
- 溶液中の状態を観察することで明らかとなる分子の運動性
- 抗体だけでなく、溶液中蛋白質複合体やウイルス粒子等の生体高分子も観察可能



溶液中ヒト血清IgGの電子密度(左)と結晶構造(1hzh)との重ね合わせ(右)



溶液中NISR標準モノクローナルIgG1 κ の
電子密度(左)と結晶構造(1hzh)との重ね合わせ(右)